

「重点戦略」に関する意見（うるおい部会）

「低炭素型まちづくり戦略」

- 「ストック」の用語の説明を
- 役割分担で、地産地消の実践，京都の伝統野菜の普及促進を
- 企業・事業者では，林業の活性化について，国内産木材の認証制度の普及啓発と補助制度を
- 全市を挙げた2Rの推進を
- 基本的な考え方の「低炭素型のまちと暮らしへの転換」は「低炭素型まちづくりとライフスタイルの転換」としては
- 戦略名称について，変えられないと思うが，「低炭素・循環型まちづくり戦略」としては
- 「歴史と文化を融合させた」とあるが，「科学技術」を入れたほうがよい
- 「エネルギー多消費型」は，「資源・エネルギー多消費型」とした方がよい
- 「エネルギー転換・ごみ減量」「低炭素時代の産業創出」に，「省エネ型・環境配慮型ライフスタイル」を加えてはどうか。エネルギー転換とライフスタイルを一つにまとめて「ごみ減量・循環型社会」の追加を
- 担い手としての地域コミュニティの記載を
- 循環型や地球温暖化部門の方に強弱，表現を含めてリライトしてもらった方がよい
- 低炭素の文章は全体をもう一度書き直してはどうか。
- 環境モデル都市行動計画にリンクさせたいのでわかりやすい言葉を付け加えればよい

「歩いて楽しいまち・京都戦略」

- 行政の役割として，歩いてばかりはしんどいので，楽しむための憩いの場所，公園の設置を
- 商店街の活性化を加えてはどうか
- バイコロジー運動の展開を加えてはどうか
- 地域コミュニティをベースにするまちづくりが必要
- 「トランジットモール化」は用語の説明を

「歴史・文化都市創生戦略」

- 歴史文化を子どもにきちんと教えることを加えてはどうか
- 歴史文化資源だけでなく，市民や地域の誇りが観光資源になることが大切

「個性あふれる地域づくり戦略」

- 「コンパクト」の用語の説明を
- 「アイデンティティ」の用語の説明を
- なぜ山ノ内，岡崎，梅小路だけが挙げられているのか
- なぜ地下鉄沿線だけなのか。個性ある地域づくりはもっと色々なところにあるはず
- 地域単位のまちづくり，地域のことを地域で考える仕組みが必要。コミュニティの位置付けを

「観光都市づくり戦略」

- 国際的な品格のある宿泊施設をきちんと作る必要がある。行政の役割として誘致について加えては
- 国際イベントに関する企業との連携を加えては
- エコツーリズムの観点を加えては
- 自然の魅力について，併せて記載しては
- 「京都のたぐいまれなる「光」とは何を指すのか
- 企業の役割にもおもてなしの心，精神が必要
- 中国や韓国，台湾などアジアからの観光客が京都に来ていないので，その観点を加えては
- 京都は見せる力，情報発信の力が弱い。これらの力を高める必要がある

「新産業創造戦略」

意見なし

「未来の担い手育成戦略」

- 「地域力」，「文化力」，「歴史力」の3つだけでなく，文化と歴史を一緒にして「行動力」としてはどうか
- 「地域力」，「文化力」，「歴史力」とはどういう意味か
- 京都でしか学べないといったトップレベルの教育を。世界の留学生を受け入れることもそのことにつな

がる。

- 未来に羽ばたくには国際感覚が必要
- 自分のことと地域のことをわかろうということを加えてはどうか。本当の国際人は自分と地元とのことを語れる人である

「子どもを共に育む戦略」

- 育てるという視点だけでなく、子どもや若者が主体となり、積極的に活躍するという視点が必要

「真のワーク・ライフ・バランス戦略」

意見なし

「地域コミュニティ活性化戦略」

- 地域コミュニティ活性化は全体に関わる問題といえる

「いのちと暮らしを守る戦略」

- 差別等の人権問題や児童虐待など良くない問題をなくすことが書かれていない。また、高齢者、障害のある方だけでなく、外国人も加えてもらいたい
- 児童虐待はコミュニティの問題ともいえる。地域としてどう考えていくかが求められている

重点戦略全般

- 重点戦略の数が多いので減らしてはどうか
- 重点戦略の枠組は、経過を踏まえてこれを前提としたい
- 様々な委員会や分野別計画の議論とリンクしていることをきちんと書いて欲しい